

米FOMCレビュー：0.25%ptの利上げを実施、利上げサイクルは終盤へ

■ 今回米連邦公開市場委員会 (FOMC) のキーポイント

- FOMC 01** +0.25%pt利上げ、政策金利幅は4.75-5.0%へ
 > 4.5-4.75%から引き上げ(図1)
- FOMC 02** 声明文に変化、利上げの到達点に近づく
 > 継続的な利上げからトーンダウン
- FOMC 03** FOMC参加者予想はほぼ変化なしとハト派的
 > 2023年末時点の政策金利中央値は変わらず

米連邦準備制度理事会(FRB)は3/21-22に今年2回目のFOMCを開催、日本時間23日未明に結果が公表されました。

■ 市場の反応は、金利低下、株価下落、ドル安

FOMCは総じてハト派と見受けられるものの、市場の反応は金利低下、株式市場は下落となりました。年内の利下げを織り込んでいた市場予想に対し、パウエル議長が利上げ継続の方針を示したことや、FOMCとは別にイエレン米財務長官が預金保護の全額保護に関する憶測を否定したとの報道が市場の懸念に繋がった模様です。

■ 年内利下げは否定も、声明文や見通しはハト派な印象

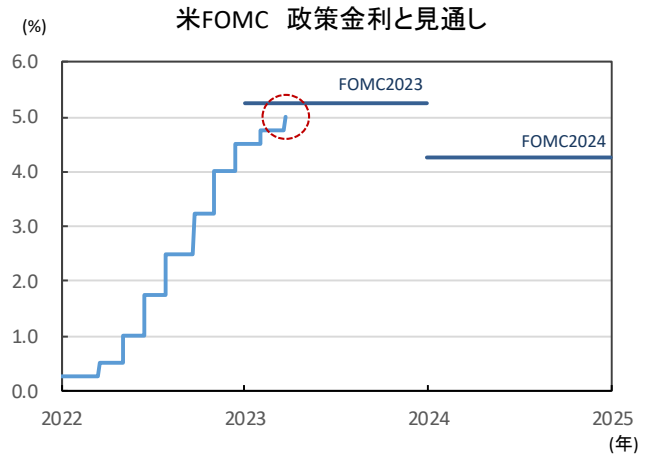
今回のFOMCに対する事前予想は二分され、物価上昇の鈍化ペースが緩慢であることから利上げ継続の予想の一方、足元の金融システムへの不安などに配慮し利上げ休止を予想する見方があったものの、結果として0.25%ptの利上げが行われました。但し、声明文は「継続的な利上げが適切」→「いくらかの利上げが適切」と変化し利上げの到達点に近づいていることが示唆されました。記者会見では、パウエルFRB議長は今回の会合で利上げ停止も議論されたものの、金融システムは健全かつ強靱であるとし物価上昇の抑制に向け金融引き締めを全会一致で行ったとしています。

一方、四半期毎に公表されるFOMC参加者の政策金利の予想散布図(ドット)の2023年末および2024年末における中央値は前回(2022年12月末)と大きく変わらず、足元の経済の強さは天候など一時的な要因が大きいとされた模様です(図2)。

■ 物価上昇軟化のカギは労働市場のひっ迫解消か

根強いサービスインフレは、堅調さが続く労働市場に端を発しています。FOMC参加者の経済見通しでは金融引き締めにより今後失業率が上昇傾向に転じる予想ですが、深い景気後退を迎えることなく物価沈静化→利上げ休止となるか、不安定な道のりが続きそうです(図3)。(清水)

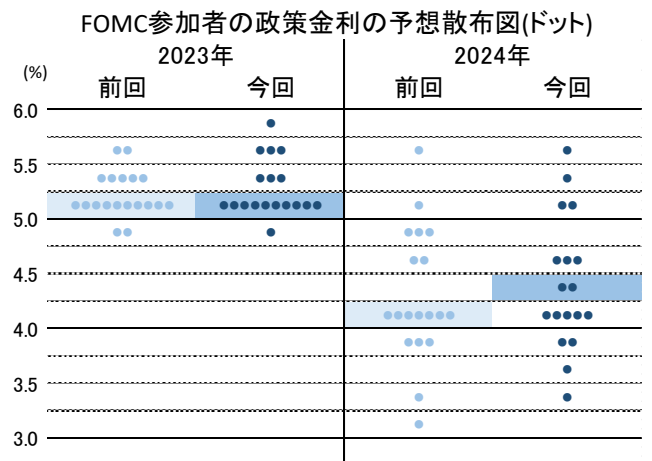
【図1】 政策金利は4.75-5.0%へ



注) 政策金利の上限値を表示。青直線 (FOMC2023/FOMC2024) は、2023年3月時点におけるFOMC参加者の政策金利 (各年末) 予想 (中央値が示唆する上限値)。

出所) FRB、Bloombergより当社経済調査室作成

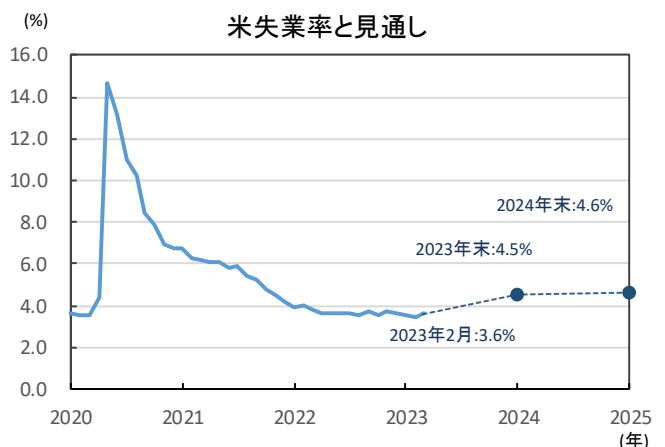
【図2】 FOMC参加者の先行きの見方は大きく変わらず



注) 前回は2022年12月、今回は2023年3月のFOMC開催時。斜線部は中央値。

出所) FRBより当社経済調査室作成

【図3】 失業率の上昇見通しは前回から変化なし



注) 直近値は2023年2月。予想は2023年3月FOMCにて公表された値

出所) 米BLS、FRBより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会